

母子で重いリバウンドを経験し治療を継続した成人小児アトピーの経過 (34 歳女性)

症例 ID：001-30-HT5 | 記録日：2017 年 5 月 27 日

1. 診断・治療前経過

生後 3 か月でアトピーと診断され、ステロイド外用薬、飲み薬、目薬、錠剤などを使用していました。春先は毎年全身が荒れ、手荒れも続き、中学生の頃には春先に顔が大きく腫れる時期がありました。

社会人になってから民間療法で脱ステロイドを行い、手を中心としたリバウンドやリンパ液を経験しました。第 1 子出産後に松本医院を受診され、その後、第 2 子出産前後の体調不良と子どもの皮膚症状をきっかけに、2016 年 4 月に母子で本格的に治療を始められました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	生後 3 か月以降、ステロイド外用薬を含む薬を使用していました。中学生以降も症状が強い時に使用していました。第 1 子には眼科でステロイド点眼薬が処方された経過があります。
製品名	不明。
強度	不明。
使用期間	乳児期から成人期まで断続的に使用歴があります。
中止時期	社会人期に民間療法で脱ステロイドを経験し、その後松本医院で治療を継続しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の本人のステロイド使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
乳児期～中学生頃	来院前	生後 3 か月でアトピーとされ、春先の全身症状、手荒れ、中学生時の顔の腫れなどがありました。
社会人 1～6 年目	来院前	民間療法で脱ステロイドを行い、手を中心としたリバウンドとリンパ液を経験しました。
第 1 子出産後	受診	子どもの卵白反応をきっかけに松本医院を受診しました。漢方薬、塗り薬、漢方風呂が処方されました。
第 2 子出産前後	悪化	顔のヘルペス、高熱、産後の体調不良が続きました。第 2 子にも首元や背中に症状が広がり、夜間に眠れない状態となりました。
2016 年 4 月	再治療開始	第 1 子は目やに、第 2 子は顔・背中・首元・頭皮の症状、母親は顔・首の症状があり、母子で受診しました。
治療開始直後	リバウンド期	母親と第 2 子に本格的なリバウンドが始まりました。第 2 子は頭皮からのリンパ液がありましたが 3 日ほどで落ち着き、皮膚症状は 1 か月ほどで落ち着きました。
2016 年 4 月～9 月	母親の強い時期	母親は強いリバウンドが続き、9 月以降も月経周期に合わせて症状が強くなる時期がありました。
1 年後頃	経過後	母親は皮膚症状の強い部位が限られるようになり、第 2 子は主にヘルペス症状と向き合う状態となりました。

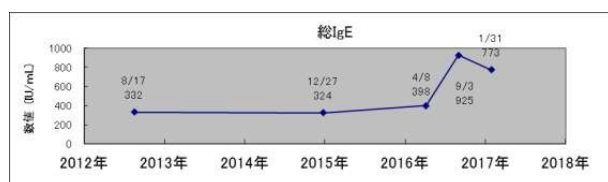
4. ピーク時期

ピークは、2016 年 4 月以降に母親と第 2 子に本格的なリバウンドが出た時期です。母親は 9 月まで症状が強く続き、第 2 子は頭皮からのリンパ液、全身の荒れ、夜間の掻破がありました。

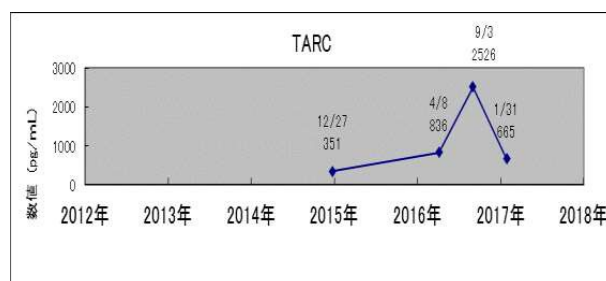
5. 困りごと

- ・母親自身のリバウンドに加え、第 2 子の夜間のかゆみに付き添う必要があり、母子ともに睡眠不足となりました。
- ・顔・首の症状、ヘルペス、高熱などが重なり、子育てそのものがつらく感じる時期がありました。
- ・家族の病気や精神的負担も重なり、治療継続に大きな負荷がありました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



総 IgE の推移。



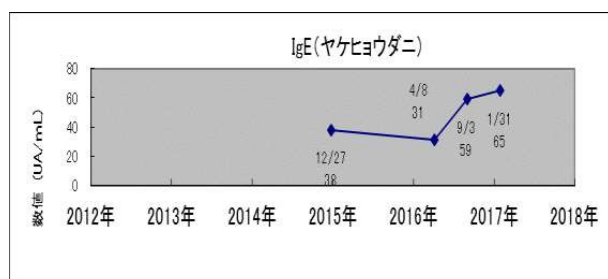
TARC の推移。



LDH の推移。



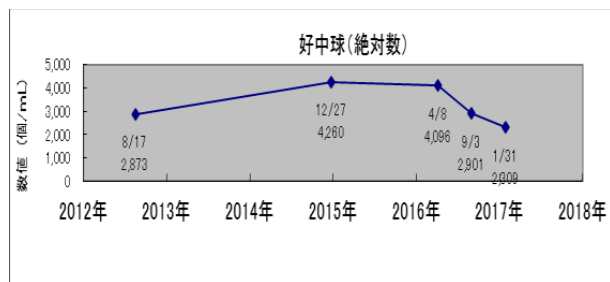
IgE (スギ) の推移。



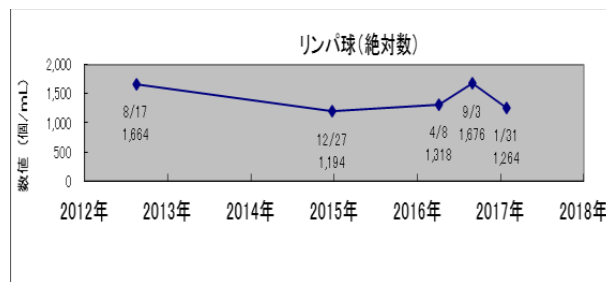
IgE (ヤケヒョウダニ) の推移。



好酸球 (絶対数) の推移。



好中球（絶対数）の推移。



リンパ球（絶対数）の推移。

7. 経過のまとめ

乳児期からステロイドを含む薬物治療を受け、社会人期には民間療法で脱ステロイドと手を中心としたリバウンドを経験しました。第2子出産前後の体調不良と子どもの皮膚症状をきっかけに、2016年4月から母子で本格的に治療を始めました。

母親は2016年4月から9月まで強いリバウンドを経験し、その後も月経周期に合わせた症状の波がありました。1年ほどで皮膚症状の強い部位は限られてきました。第2子は頭皮からのリンパ液が3日ほどで落ち着き、皮膚症状は1か月ほどで落ち着きました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。